



自然を守る大切さを伝えていくために

今冬も『JAL タンチョウ フォトコンテスト』を開催します

JAL グループの飛行機の尾翼に描かれるシンボルは、
日本の美の象徴ともいえる「タンチョウ」をモチーフにしています。
タンチョウをはじめとした動物や植物、
そして豊かな自然をずっと守っていくために。
そんな想いを込めて、今冬もコンテストを開催いたします。



撮影／和田正宏

生物多様性の大切さを
将来の世代に伝えるために

「生物多様性」——この言葉からは、地球上に生きる多種多様な動植物の種が互いに繋がり生きること、また、それらが生きるさまざまな生態系を守るこの大切さが想起されます。

私たちが豊かな食糧など、さまざまな恵みを得られるのも生物多様性があるからこそ。そして旅行の際には、美しい自然に生きる動植物との触れ合いや、それらを育む自然を体感すること、を求められる皆さまも多いのではないのでしょうか。

JALグループは、世界中でその必要性が叫ばれている生物多様性の保全活動を、環境分野の大切な取り組みのひとつと考えています。航空会社として日々の運航業務により、少なからず環境に負荷を掛けているからこそ、JALグループとして生物多様性方針を定め、それに関わる活動を通じてながら生物多様性を守るこの大切さを皆さまと共有し、将来の世代に伝えたいという想いがあります。

そこで、絶滅危惧種の動植物を機体に描いた特別塗装機「JALエコジェット・ネイチャー」の運航による啓発活動や、JALグループ便が就航する奄美地方における、特別天然記念物・アマミノクロウサギの生態系保全活動など、航空会社ならではの啓発・保全活動に、積極的に取り組んでいます。

タンチョウと人間との共存
そこに見えた新たな課題



撮影／和田正宏

国の特別天然記念物であるタンチョウは、一時絶滅が危惧されましたが、近年多くの保護活動関係者の努力により、その数が回復傾向にあるといわれています。しかしその一方で、タンチョウの生息域が人間の生活圏に近づき、保護活動は新たな課題に直面しています。

北海道・釧路を拠点に、タンチョウが安心して暮らせる社会を目指し、調査・研究活動に積極的に取り組む『NPO法人タンチョウ保護研究グループ』の百瀬邦和さんに、タンチョウを取り巻く今の環境についてお話を

伺いました。

「タンチョウは、主に北海道の釧路地方で行われている給餌活動によって数が増えましたが、それでも世界に生息する推定総数は3000羽を超えた程度。生息環境の不安定さを考慮すると、依然として絶滅危惧の状態です。」

北海道では冬の給餌のほか、生息状況を知るための調査が行われています。巢の分布と数を確認する繁殖状況調査、最新の生息数を確認する総数調査、寿命や生存率などを調べる標識調査などにより、タンチョウは日本では最もよく調べられている鳥のひとつです。繁殖地は釧路・根室地方から十勝地方、そしてオホーツク海沿岸、さらに北のサロベツ・宗谷地方へと広がってきました。多くの人がタンチョウを「北海道の鳥」として実感できるよ

うな日があるかもしれません。

一方で、渡りをしない北海道のタンチョウは、自然の餌が少なくなる冬は給餌に頼って生きていますし、道路を渡って牧場に入ったり、牛の餌の中の穀類を日常的に食べているつがいも多くなります。人間の活動に頼って生きているタンチョウが、人口減少が進み牧畜をはじめとした農業の形が急激に変化し始めているなかで人間と共存していくためには、私たち人間がタンチョウと自然と共に生きていくという姿勢が欠かせません。

雪上のタンチョウの美しさは多くの人に愛されていますが、同時に、どんな鳥であってほしいのか、そのために何をすべきなのか、そんなことを思いながらタンチョウを見ていただきたいと思います。」

第3回フォトコンテストの
応募をお待ちしています

私たちは、生物多様性の啓発活動のひとつとして、今冬で3回目となる『JALタンチョウフォトコンテスト』を開催いたします。

厳冬の自然のなかで、力強く生きる姿、優雅に大空を舞う姿、雪原で戯れる姿など、タンチョウは、その時々でさまざまな表情を見せてくれます。そのようなタンチョウの姿に感じられる、生物多様性の大切さ、美しい自然の姿を次代に伝えたいという皆さまの思いが込められた写真に、メッセージを添えて、ぜひお寄せください。

本コンテストの入賞作品は、JALホームページへの掲載などにより、広

くご紹介させていただきます。

本コンテストの詳細は、下記ウェブサイトにてご案内しています。

タンチョウが暮らす釧路はこれから厳しくも美しい冬の季節を迎えます。この機会に釧路へ赴き、雄大な自然を体感してみたいか？タンチョウと向き合ったとき、日本の自然の美しさを再発見することでしょう。



第3回『JALタンチョウフォトコンテスト』

www.jal.com/ja/happyeeco/tancho2015/



「河川で餌をとるタンチョウ、こうした自然な環境で生活しているタンチョウを多くの人に見ていただきたいものです」(百瀬さん)

第2回『JAL タンチョウ フォトコンテスト』入賞作品

MISIA 賞
『ダンス』



由井猛さま
(60代) 兵庫県

JAL 賞
『雪に舞う』



前田賢一さま
(50代) 北海道

※入賞作品の一部をご紹介します。

特別審査員・MISIA さんからの メッセージ



MISIA (アーティスト)

比類なき圧倒的な歌唱力と高いライブパフォーマンスを誇る国内屈指の実力派女性歌手。貧困や環境問題解決のための社会貢献活動にも精力的で、2010年には国連より COP10 名誉大使に任命される。

「毎回、ご応募いただくタンチョウの美しい写真を見ることを楽しみにしています。この姿をずっと見ることでできる世界であってほしい。そう願うことは同時に、命を育む自然や生命の繋がりを、大切にしたいと望むことでもあります。このコンテストが、そんな思いをたくさんの方と共有できる機会になることを願っています」